

第18回山陰文化圏医療情報技術研究会

開催概要

目的

本演習の目的は、単なる紙運用の模倣ではなく、「情報の断絶」というシステム不全を可視化することにあります。参加者が日常業務で依存しているデジタル基盤を認識し、アナログ運用のボトルネックを抽出し現場感覚として意識してもらうことを目指します。

開催日：令和8年8月1日（土曜日）

受付：13:00～13:30

会場：米子医療センター 米子医療連携センター 1階 くずもホール

アクセスマップ： <https://yonago-mc.hosp.go.jp/accessmap/index.html>

（駐車料金について参加者は会場内で無料とする手続きが可能です）

参加費：2,000円（Peatixにて事前決済）

当日参加者はオブザーバー参加者とします

参加申し込み方法：山陰文化圏医療情報技術研究会 HP より受付

企画提案 太田原 顕（米子東病院）・勝部典子（米子医療センター）

全体司会 永見 仁史（山陰労災病院）

内容

A:サイバーセキュリティ対策：個人から社長まで 13：30-14：35

座長：寺本 圭（鳥取大学医学部附属病院医療情報部）

1. 講演① Ai 利用し作成した病院勤務者の日常における情報利用の注意点

演者 米子東病院 太田原 顕 （15分）

2. 講演②医療機関に於けるランサムウェア被害の原因と今すぐ取るべき対策

演者 モト・コンサルティング株式会社 代表取締役 西村 元宏 （45分+質疑応答5分）

休憩10分間

B:グループワーク 紙運用業務のフロー図を作ってみよう

① ワーク参加者 1チーム6名 8島まで

希望者を募り、希望多数の場合は上限制限のうえ抽選（施設・職種などを考慮して主催者で抽選させていただき、選に漏れたかたはオブザーバー参加者とさせていただきます）

② オブザーバー参加者：実施中に各チームの見学は可能で、配布資料は適宜配布し、持ち帰り可能

タイムスケジュール

14：45-15：45

チューター 太田原 顕

1. グループワーク 1：異常発生時行動の可視化（25分）

①検体 パターンの時系列事象関連図を作成する

2. グループ発表（20分：発表5分 講評5分）

2チームに行っていただきます

3. 時系列事象関連図作成の2回目（15分）

②処方、③X線のいずれかのパターンの時系列事象関連図を作成する

休憩10分間

15:55-17:00

5. グループ発表（25分：発表5分 講評5分）

グループ、②処方、③X線 選択した各2チーム計4チームに行っていただきます

※ワーク参加者には発表終了時に各テーブルに事務局が資料配布希を行います

6. グループワーク2：KPT分析（手法の解説2分 発表分担設定、10分）

できるだけ多くの意見を出せるようにリーダーはアプローチしてください

※オブザーバー参加者で資料配布希望者はこの間に事務局へ取りに行ってください

7. グループワーク2：KPT分析発表（15分：各グループ4分×2組+1分）

②処方、③X線 について2チーム発表していただきます

8. KPTグループ内の振り返り：（6分）。

各グループ内でリーダーが司会者となって感想を述べあっていただきます

9. チューターが講評を行います。（4分）。

10. 質疑応答 (5分)

11. 次回第19回開催予定案内

懇親会 別途案内 (Peatix 内で事前決済者のみ 定員未定)

主催 山陰文化圏医療情報技術研究会

**後援 医療情報技師育成部会中四国支部 (医療情報技師ポイント 3ポイント
取得予定)**

